

平成 29 年度 第 1 回瀬谷区地域福祉保健計計画 全域計画推進懇談会 議事要旨

| | |
|-----|---|
| 日時 | 平成 29 年 6 月 22 日 (木) 午後 2 時から午後 4 時 15 分 |
| 場所 | 区役所 5 階大会議室 A B |
| 出席者 | 出席委員 18 名中 16 名 |
| | <p>1. 開会あいさつ (森区長)</p> <p>2. 新任委員紹介</p> <p>3. 議題</p> <p>(1) 28 年度第 2 回全域計画推進懇談会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 事務局から、28 年度第 2 回全域計画推進懇談会 (29 年 3 月 8 日開催) の議事要旨を説明。 <p>(2) 29 年度全域計画 事業計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 事業を所管する各課課長及び区社会福祉協議会事務局長、地域ケアプラザ所長代表から、計画該当事業について説明。 <p>(3) 全事業についての意見交換 (◇ : 意見等 → : 所管課による回答)</p> <p>◇ 災害時ペット対策について。昨年度、地域防災拠点でペット同行避難訓練を行おうとしたが、学校から「アレルギーの体質の児童もいるので、ペットを校庭に入れることは控えてほしい」との申し入れがあった。それももつともなことであり、昨年度の同行避難訓練は中止したが、区はそういう課題があることを認識し、それを克服する対策についても検討してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➡ ペットアレルギーの方への対応は課題と捉えている。対応の一点目として、拠点運営側へ、ペットの避難エリアを、校庭やそれが困難な場合は防災拠点の近くの公園等、人の避難エリアとできるだけ離して設置するようお願いしている。二点目として、ペットの飼い主側へ、普段からのしつけ、ブラッシング、健康管理等に加え、アレルギーをもたらすペットの毛の飛散防止を啓発していきたい。(生活衛生課長) <p>◇ 三ツ境駅バリアフリー構想について、基本目標Ⅲの事業となっているが、基本目標Ⅱにも該当するのではないか。</p> <p>また、歩道の整備等に関連して、一例であるが、厚木街道の歩道がなく、車いすの方、またはベビーカー等も通れない状態にある。今すぐでなくても、長い期間をかけて整備等に取り組んでいくのだという考えを示してほしい。中原街道の歩道も、最近舗装された箇所、数年前に舗装し直した箇所、道路ができた当初のままと思われるような状態の悪い箇所もある。部分的に補修工事をしているために、補修箇所と補修前の箇所との間に溝や段差が生じてしまう。歩道は高齢の方の杖歩行やシルバーカー、歩行器使用の方も利用している。こうした現状も、暮らしやすいまちづくりの観点から課題としてとらえてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➡ 厚木街道については長期的な課題として認識している。また、歩道に関しては、凹凸等の状況も認識しているが、限られた予算の中で、歩行者数等も考慮しながら優先順位をつけて補修等を進めていきたいと考えている。(土木事務所副所長) <p>◇ 「三ツ境駅案内サイン等の整備」とは何をやるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➡ 三ツ境駅とその周辺は複雑な構造であるため、どちらの方向に行けば主要な施設にご案内 |

できるのかということをしめ細かく案内板を配置し、区民からご意見をいただいたときに少し配置を見直す対応もしている。(区政推進課長)

◇ 区民意識調査について。身近な生活環境である上瀬谷通信基地跡地利用について、現在基本構想づくりが進められている花博開催について質問項目に盛り込んでほしい。

◇ 地域防災拠点で、みんなが防災訓練をやっていると、何かあればみんなあそこに行けばいいのだという意識が生まれてきてしまうが、キャパシティを考えると、地域住民の全てを受け入れることはそもそもできない、ということを地域がきちんと把握する必要がある。

地域の中で見守り合いながら皆さんで助け合っていこうというのが原則。そのうえで防災拠点の運営を考えるようにしないと、今のままでは、おそらく何かあればみんなが防災拠点に行ってしまう。それでは絶対に受け入れは無理。

ペットアレルギーのことだけではなく、地域防災拠点には必ずしも食物アレルギーに対応した備蓄品があるわけではない。隣近所で見守り合い支え合うことができれば、なるべく自宅にいたほうがいい。障害者に関しても同様で、地域での避難生活が困難と判断される場合についてのみ、防災拠点で対応する。そういう形を考えていかないと、今のままでは混乱するだけ。

形だけでなくきちんと中身を捉えながらやっていかないと、日頃からの顔の見える関係づくりが災害時の助け合いにつながるという見守り防災事業。とても素敵な、他区にはない取組が宙に浮いてしまっている。これと防災拠点のあり方をきちんとリンクして考えていかなければならない。

➡ 区としてもまさにそのように認識している。各防災拠点の運営委員会の皆様の課題認識も、特に昨年の熊本の震災以降、同様である。

なるべく拠点に来なくてすむように、拠点運営委員会では、耐震対策や家中の安全対策等、日頃の備えを万全にすることを呼び掛けている。拠点は、家屋の倒壊等、家の中が住める状況でなくなったときのための場所である。また、自治会、町内会等に情報や物資を配給する機能を持っている。このことをきちんと地域の皆さんに周知し、準備をしていただくことが大切ということが認識をされて議論が深められている。(総務課長)

◇ 子育て支援の関連。今年度は、地域ケアプラザの事業計画の中に、「子育て応援ネットに参加して」の一文が入ったことがとてもよかったと思う。

お母さんたちに「ケアプラザはどういう施設だと思うか」と聞くと、「高齢者の施設」との回答が非常に多い。子どもにミルクを飲ませたい、トイレを借りたいと思うときに、お母さんたちがケアプラザを利用することは、まだなかなか難しいようだ。「ケアプラザは、子育て支援もやっている。地域の親子の方々が行ってもよいところ」ということが伝わるような事業に、ぜひ主体となって取り組んでいただきたいと思います。

子育て応援ネットはネットワーク会議であり、関係機関、主任児童委員さんたちとの連携が目的である。会議の場で、その地域の子育ての課題に気づき、地域ケアプラザでもう一步積極的に親子支援についても取り組んでいただけると、親子にとっては、すごくいいことだと思う。

➡ 地域ケアプラザは高齢者のための施設というイメージを、まだ払拭できないでいる。いろ

いろな場で事業を説明する際に、「地域ケアプラザは、こども、障害者の方、高齢者の方など、いろんな方のご相談に応じたり、支援をしたりする施設ですよ」ということは PR している。その中で、子育て・児童支援の部分が一番弱いと自覚しており、これから積極的に、子育て支援にも関わっていかうという意思表示としてこの項目を立てた。(地域ケアプラザ所長)

◇ ボランティア促進事業について。中高生のボランティア促進として、ボランティアカードの配布という取組を瀬谷区ではかなり前から続けている。地域での活動に参加したときに、「地域でこれだけのことをやりました」ということを記入して差し上げて、中学生もとてもそれを喜んでいる。一方、ボランティアカード自体が少し形骸化してきている。子どもたちも何か積み立てられるようなことをやっていかないとつたいない。ボランティアカードの活用を何か考えていただきたいと思う。

➡ ボランティアカードの活動証明書自体は、平成 24～25 年、ちょうど高校入試が変わった頃は非常に少ない件数だったが、最近は少しずつ増加傾向にあり、たとえば 28 年度は中高生合わせて 114 件発行している。やったことが本人に返り、さらに次の活動につながるようなことは、確かに必要だと思う。区の社会福祉協議会やボランティアセンター等と協議しながら、検討していきたい。(地域振興課長)

➡ 区社協のボランティアセンターに登録をさせていただいて、次の活動につなげるような形を、参加している中高生に随時呼びかけている。夏休み期間等は、子どもたちの活動が活発になるので、そのあとの登録が少し増える傾向である。(区社会福祉協議会)

◇ 子ども支援事業の推進について。身近な地域のつながり・支え合い・活動推進事業として、「子どものいる生活困窮世帯の支援に取り組みます。また、地区別計画の推進など、地域の方々から捉えた生活困窮、子どもの貧困、虐待、孤立などの課題を、地域の見守り・支え合い活動を支援することによって解決していきます。」とある。まさに、これが、今、地域の中で一歩を進めるときに、とても必要な支援だと思う。具体的にどんな形の活動を、今年度考えているのかお聞きしたい。

➡ 地区によって活動が盛んな地区と、まだこれからという地区がある。そのあたりは、地域的な実情もあろうかと思うが、やはり必要だ。「これから、取り組みたいけれども、どうしたらいいか」と悩んでいる地域もある。その地域の実情に合わせた形で、地区支援チームの一員として、日常的に地区の中に入って、いろいろな相談を承っている。それを持ち帰って、ほかのいろいろな事業担当とも協議しながら、いろいろなところとつなげていくのが区社協の仕事だと思っている。区社協の中で資源が足りなければ、外に求め、つなぎをしながら進めるのが新しい子ども支援の取組である。(区社会福祉協議会)

◇ 地福計画推進シンポジウムについて。参加者アンケートの結果では、「とても参考になった」など、とてもいい意見が多いが、幅広い方が参加しているかという点、なかなかそうではない。発表する地域のメンバーが、応援で来ていたり、それはそれでいいことだと思うのが、せっかくの啓発の機会なので、毎年同じ形ではなく、何か幅広い方が地域福祉保健計画を知るきっかけとしての仕組みをつくっていただけないか、とここ数年は思っている。

ウォーキングや健診も、若い世代が参加できるような、何かそこだけに特化するということ

は難しいのかもしれないが、若い人たちは、情報があるととても動く方たちもたくさんいる。

健診に関しても、4か月健診でも乳がんの啓発などをやっていただいている。やはり今は、若いママたちもサロンなどにいらっしやると、健康不安をいろいろなことで感じているのだけれども、日々の忙しさに追われてしまうということもある。「今回はここがターゲット」といったような形で取り組む等、何かしていただけたらいいのではないかと思います。

◇ 健康づくり関連について。区内の公園の健康遊具に説明看板がついたことで、健康遊具を活用しやすくなりありがたく思っている。

ウォーキングが一番手軽にできる有酸素運動であり、健康づくりのもとであるとの意識を区民へもっと広めたい。保健活動推進員として普及啓発に取り組んでいくが、各団体の皆さんもぜひ後押ししていただきたい。

年に一度、特定健診未受診者へのチラシを配布することはよいと思うが、健康への意識改革の取組として、「自分の誕生日に特定健診を受ける」という取組を推進してはどうか。

健康づくりの3本柱、運動、栄養、休養のうちの、栄養について、食育健康事業とあり、あまりPRされていないが、バランスに気をつけて食事を摂ることは、健康づくりにおいてとても大事なことだ。もっと食育についてPRしてはどうか。

健康寿命について、平均自立期間に関する説明をお願いしたい。

➡ 特定健診受診率向上に向けて、27年度から区独自の取組をしている。なかなかすぐにといいわけにはいかないが、着実に市の平均に近づいている。28年度の実受診率は、残念ながら全市的に若干落ちているが、瀬谷区は減少率がかなり少ないとの集計の途中経過が出ている。これも、ひとえに保健活動推進員、区医師会他、皆様にご支援いただいた結果であると考えている。今、ご提案いただいた「誕生日に健診を受けるという習慣へのきっかけをつくったらどうか」ということについては、データから毎月未受診者を抽出するということがシステム上困難であるが、皆さんに受診をしようというきっかけになるような良いインセンティブになるものはないかということを検討したい。(保険年金課長)

➡ 健康寿命というのは、国民生活基礎調査の結果を活用した「日常生活に制限のない期間」のこと。調査数が少なく、区ごとの健康寿命の算出はできないが、代わりに参考になる基準として、平均自立期間がある。これは、健康寿命の考え方の一つであり、横浜市では、平均自立期間を「要介護認定における要介護2～5」を、「介護を要する状態」と捉え、そこに当たらないところが「自立している」と判断して数字を出している。

ただ、介護保険の要介護の判定要綱が算定結果に強く影響するので、対象集団でも、年次間の推移など、総体的に見たほうがよいとの報告がなされている。

ここに平成23年度の状況を示しているが、瀬谷区は、横浜市の平均よりも、男性も女性も平均自立期間が若干低くなっている。平均自立期間を長くしていくためには、健康づくりに取り組んでいく必要があるが、そのためには、運動、食べ物、日常の生活習慣等、ライフスタイルを少し変えていくことだけでは、なかなかすぐには難しいところもあるように思う。本当にいろいろな手段を使って、さまざまな場面で取り組んでいくことが大切であり、保健活動推進員の方にはご協力いただきありがたく思う。ウォーキングポイントも、18歳以上の方が参加できるようになったので、若い方の参加も、ぜひもっと進めてい

きたいと思っている。(福祉保健課長)

- ◇ スポーツ推進委員としてふるさとウォークに取り組んでいるが、最近参加者が減っている。ウォーキング団体連絡会以外でもケアプラザや自治会町内会など様々な団体がウォーキングに取り組んでいる。参加してどうだったか、いつもどこでどのくらい歩いているのかなど、各主催者で参加者にアンケートをとってほしい。課題があればウォーキング団体連絡会としてお手伝いできることがあるかと思う。高齢者だけでなく、こどもや若い世代の人達に健康のためにもっとウォーキングに取り組んでもらうためにも参考にしたい。

- ➡ ウォーキングイベントの目的としては、参加者の健康づくりであったり、障害者の方と地域の皆さんとの交流をとおした障害理解促進であったり、いろいろある。イベントへ参加された皆さん方がよりよい方向に向かえばよいと考えている。アンケート実施については、いろいろなところに関わることでありもう少し検討したい。(福祉保健センター担当部長)

- ◇ 地域福祉保健計画にかかわる事業に対する補助金交付について聞きたい。

- ➡ 地区別計画の推進のための補助金で、申請に基づき 12 地区それぞれに年額 6 万円を交付している。(福祉保健課長)

- ◇ シニアクラブの活動を報告したい。シニアクラブでは昨年名和田先生と岡田先生をお招きして、地域福祉保健計画の推進とシニアクラブの活動の連携についてご講演いただき、たいへん参考になった。

高齢者は健康づくりの活動を日常生活の中に取り込むことが大切で、単にウォーキングなどのイベントへ参加しただけで持久力が上がるものではないと考える。そこで、シニアクラブでは、地域で趣味やスポーツのサークルが定期的に継続して活動ができるように取り組んでいる。二ツ橋地域ケアプラザでは、そういった様々な活動をマップに載せて地域へ配布していただいている。それを見た新たな参加者がぽつぽつと増えてきている。介護予防としても同様に自分の問題として取り組む意識で活動を展開している。仲間と一緒に活動する中でだんだん輪が広がっていけばよいと考え、宣伝している。

次の世代がシニアクラブの活動に参加してくれるような取組が課題。それは自治会町内会の発展にもつながると考えている。

- ◇ 「せやっこ体験事業」について。『せやっこだより』の発行としか書かれていないが、それ以外でも「せやっこ体験事業」など青少年指導員も協力していろいろやっている。そのあたりも含めて内容を細かく記載してほしい。

また、「青少年指導員団体支援事業」についても、瀬谷区の探検や瀬谷かるたなど、青少年指導員としてもいろいろ行事をやっている。もっとアピールするような表現をしていただければと思う。

- ➡ せやっこ体験事業ということでは、農体験や花生けなど、いろいろな事業をやっているが、基本目標Ⅲ「誰もが活動に参加する地域づくり」という視点で『せやっこだより』を中心に記載した。表現は少し工夫をしたい。(地域振興課長)

- ◇ 瀬谷区の地域福祉保健計画の中に触れられていないが、2025 年問題関連として介護の担い手不足が懸念されている。それぞれの施設や法人の自助努力だけでは限界があり、すでに老

人保健施設や特別養護老人ホームなど横浜市内の施設においても、介護職員がいないためにユニットが閉鎖されている状況が見られる。ショートステイを閉めてしまっている施設もある。これからさらに高齢者が増えていく中で、施設としては、やはりプロの介護職を養成していかなければいけない。施設では、高校生アルバイトに、介護職でなくてもできる仕事を任せるといった工夫や、複数法人で介護職員基礎研修を開催して、自分たちの職員を出し合って、介護職を掘り起こそうという動きもしている。

しかし、「介護職は3Kだ」というマイナスイメージを持たれてしまっており、これをどうにかして払拭したい。厚労省のホームページに、京都府の福祉人材確保総合事業として、京都府健康福祉部介護地域福祉課による小中高生、保護者、教員への職場理解促進する事業が載っていた。小中学生に介護の職場体験を実施し、学校でその発表会をして来場の保護者に向けてこども達が福祉職場で感じたやりがいを伝える。また、高校生、教員向けの出前講座。高校、中学、小学校の教員向け、特に進路指導の教員へのアプローチとして、福祉の現場は決して3Kではなく、すごくやりがいを持って職員が働いているということを実際に見学し、意見交換し、お互いの理解を深めていく、というもの。瀬谷区でもこれはできるのではないかと思う。ご意見をうかがいたい。

- ◇ 一点目、食中毒と感染症の予防対策。社会福祉施設の給食従事者への啓発として、保育園と高齢者施設だけが記載されている。障害者施設も入れていただきたい。

二点目、昨年度里山ガーデンウォークにお声かけいただいて、障害者が総勢40名ほど参加し、地域の皆さんと一緒に歩いて8kmを完走することができた。車いすの方や視覚障害の方など、どうしても少し長い距離が難しい方もいるが、そういった視点も加味していただきながら、今後も引き続き障害者へも声をかけていただきたい。

三点目、公園愛護会のこと。せや福祉ホーム近隣の公園について、愛護会での管理が困難となり、福祉ホームがお手伝いすることになった。どういった公園にするか、障害の視点や、こどもが集まりやすい遊具をといた視点などを土木事務所が考慮していただいた結果、今まで全然来なかったこどもさんが改修工事をしたら公園にたくさん集まるようになった。道路のことだけではなく、公園をどうつくっていったら施設やこども達や障害者にとってよりよいものになっていくのか、ということも全域計画の推進と考えることができるのかどうか、検討してほしい。

- ◇ 実際に活動している人たちの今までの声の積み重ねが、このプランに反映されていて素晴らしい。さらには、各部局がそれを受け止めて取り組んでいることでこんなにいいプランになったのだと感じてすごくうれしい。

現在もたくさん各分野で活動している方がいる一方で、まだまだ活動デビューをしていない人も多い。私は、市民活動の中間支援のNPOにいるが、そこで、地域づくり大学校という事業を受託している。年間6～7回の講座の後に、夢プランの発表会というのがある、その夢プランを冊子にしている。発表会では本当に面白い、ユニークな内容で、活動を楽しんで元気づけられて、仲間づくりがうまい方たちがたくさんいる。

町内会長推薦で受講生を出している区では、町内会長が地域づくり大学校の入学式・卒業に参列してくれている。また、どこの区も区長、副区長がその地域の「夢プラン」の発

表会を見ていて、その地域が考えていることを知り、「夢プラン」実現に至るまでのプロセスに各担当部署が伴走している。

そうすると市民力が上がって、暮らしやすいまち、楽しいまち、自分が住んでいて誇りに思えるまち、こうだったらいいのにということを実現していく中で、また愛着が増えていくという相乗効果もあると思っている。

瀬谷区も、地域づくり大学校を2年ほど前にやったと思うのだが、成果がどんなものだったかお聞きしたい。仕掛け方によっては、楽しく地域活動をする人材の仲間づくりができて、瀬谷区の計画推進がさらにパワーアップができそうな予感がしている。

◇ 今のご意見や、先ほどのシンポジウムの参加者に関する事など、多くの委員のご発言の中で、「輪を広げる」という観点からのご意見が非常に多かった。今日の会議のキーワードではないかと思う。「すそ野を広げる」ということをもっと考えなければいけないと思っている。

◇ 先ほどの「健診を誕生月に」というご提案に賛成する。血液データや体重などは季節変動があり、毎年同じ時期に受診することで、前年との比較がしやすくなる。また、医療機関側からすると、年度末の駆け込み受診が結構多く、年間で均衡化されたほうがやりやすいという事情はある。未受診者を整理して年間何度も通知を送るのは難しいのかもしれないが、案内時に、「ぜひ、誕生月に」と一言添えるといった工夫はできるのではないかと思う。

医師会として、瀬谷区医師会館と休日急患診療所の移転が決まったことをお知らせしたい。場所はせやまる・ふれあい館の裏で、今は更地になっているところ。来年度末に完成予定。これに伴い、今日説明のあった災害時医療体制に関連するが、災害時の医療拠点についても今の厚木街道の場所から移転することになる。ご承知おきいただきたい。

◇ 区で区民の交流をはかる事業を実施するにあたり、川や森など瀬谷区の魅力ある自然や、農業地、歴史的施設といったものを、次代を担うこどもたちなどへ知ってもらう、という視点を持ってほしい。そういう取組が、誇れるまち、誇れる瀬谷区、といった郷土愛へつながっていくものと考えます。また、農体験などにより、瀬谷区の産業を知る機会もぜひ提供してほしい。

青少年活動団体支援として、瀬谷区子ども会育成会について触れてある。現に支援していることはよいのだが、残念なことに全区的な活動にはなっていない、という点から目をそらさないでほしい。単位子ども会は、それぞれ自治会と町内会で支援しているが、もう子ども会自体が、こどもの数が少なくて成り立たないところもある。やはり地域のどの子も参加できるという事業をやらなければいけないと考えている。区もそういった視点を持って考えていってほしいと思う。

◇ 最後にまとめとして、先ほど申し上げた、「輪を広げる」ということが、瀬谷でもずいぶん話題になってきたと感じている。今日は予定時間を超過したがとてもよいご意見がたくさん出て、よかったと思う。

4. その他

5年間の計画推進スケジュールの見直しについて、事務局から説明。

➡ 計画3年目の中間振り返りの代わりに、計画4年目に第3期計画の取組全体を振り返ることで、計画5年目の次期計画策定作業へつなげていく。それに伴う変更点は2点。一点目は、計画推進シンポジウムでの地区別計画取組発表の順番。30年度に基本目標Ⅱ、31年度に3期計画の振り返り、という順で発表をお願いしたい。二点目は、区民意識調査のこと。多くの区民の皆様の意見をいただくために、当初は計画3年目の30年度に、地域福祉保健計画の調査を実施すると考えていたが、29年度と31年度に実施される区民意識調査において、地域福祉保健計画関連の設問を設定する形へ変更することとしたい。

5. 29年度の予定について

- ➡ 今年度の地域福祉保健計画推進関連スケジュールについて、事務局から説明。
- ➡ 移動情報センターについて追加記載された、区社会福祉協議会パンフレット改訂版について、区社会福祉協議会事務局長から説明。

以上